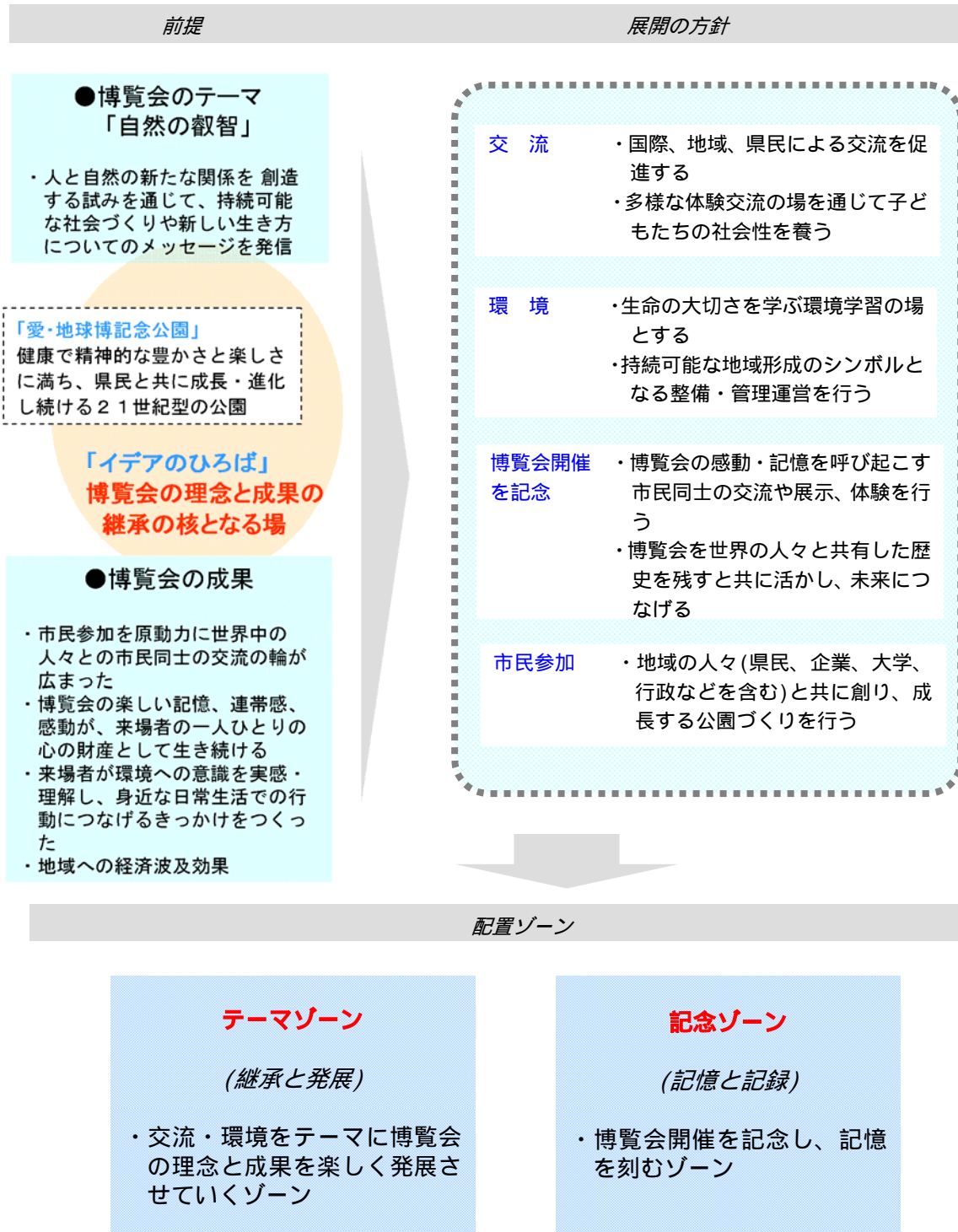


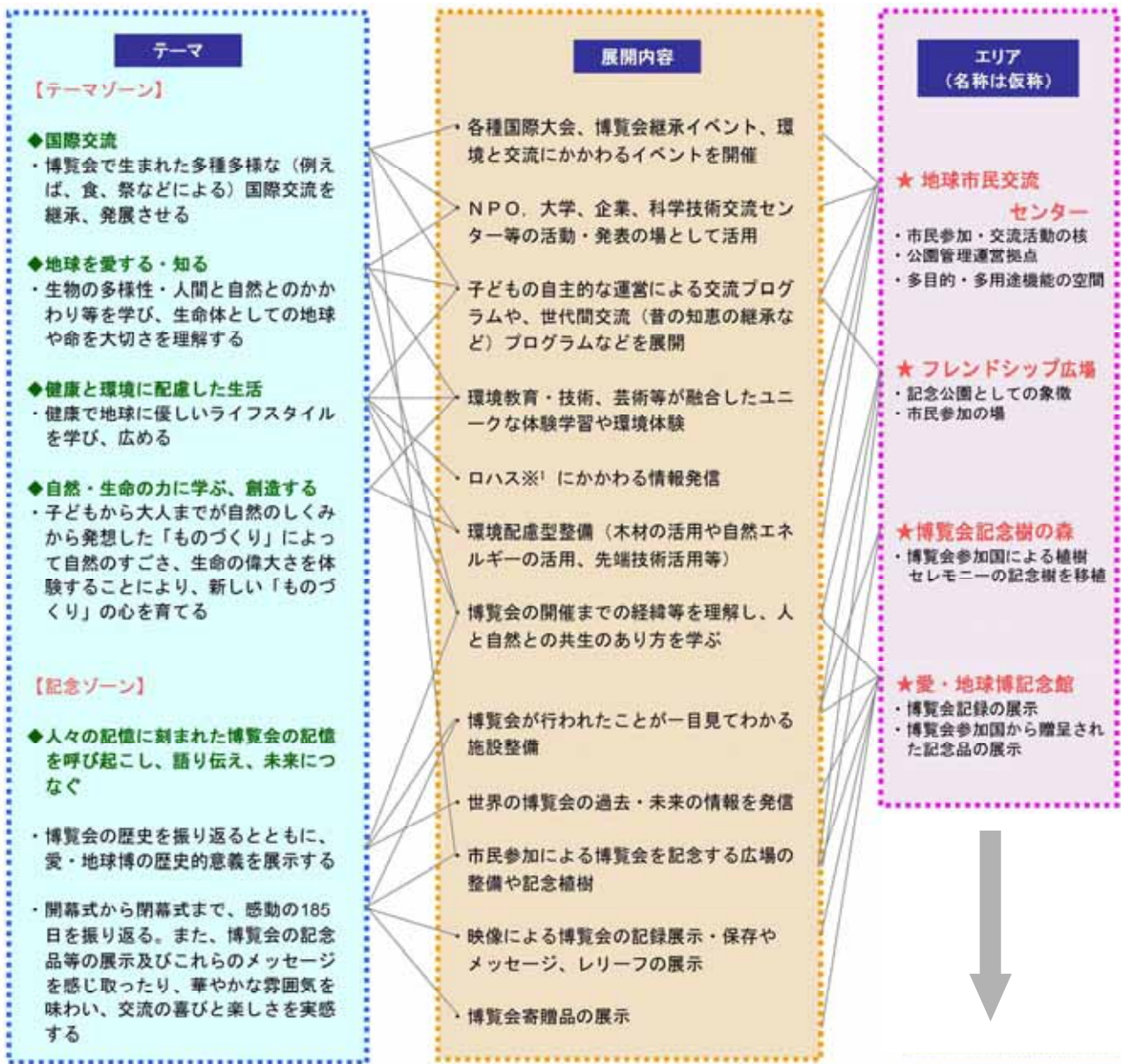
4.3 アイデアのひろば

博覧会の理念と成果の継承の核となる場として位置づけられた「アイデアのひろば」における展開内容を以下に整理する。（「アイデアのひろば基本計画」より）

展開内容

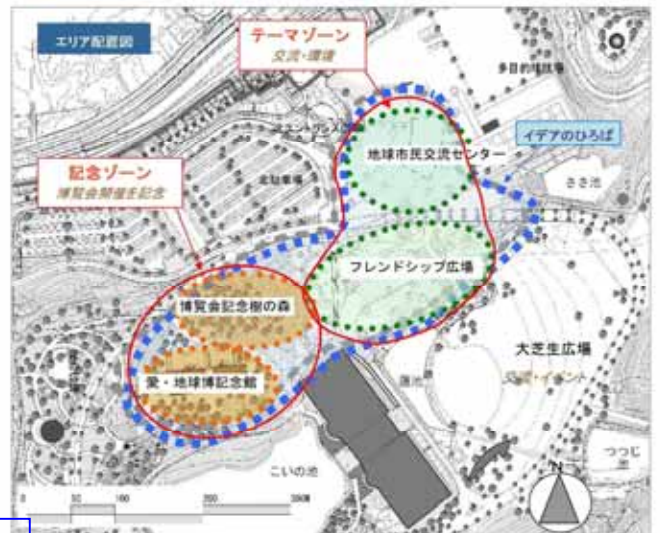


テーマと展開内容



公園内の隣接ゾーン、公園周辺の各種施設・将来計画との連携

- (園内)・「みんなのひろば(大芝生広場)」でのイベント連携
- ・「フィールドセンター」、「児童総合センター」等の公園施設との連携
- (園外)・近隣の大学(県芸大、県大等)や農業総合試験場等、既存各種施設との連携
- ・海上の森、長久手田園バレー事業、科学技術交流センター(仮称)等、周辺の将来計画との連携



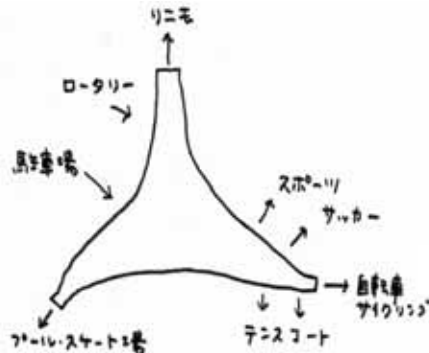
1: ロハス(LOHAS)
【Lifestyles of Health and Sustainability】
健康で持続可能なライフスタイル

地球市民交流センター

1) 基本コンセプト

環境をつなぐデザイン

- ・外部と内部が緩やかに繋がれた明るく開かれた空間
- ・周辺丘陵地形のアンジュレーションに溶け込む曲線形状
- ・自然の風や熱（気温）などの変化や動きを活用



- ・周囲の要素（機能、植栽、施設、人の動線等）に接しながら、それらを接合

大きくてシンプルでロングライフ

- ・機能にしばられず、多用途な空間構成
- ・周囲の景観や環境、施設と調和するシンプルな形状と構造
- 市場、様々な分野の交流や教育の場として活用
- ダイアログ広場をくみこんだラウンジ
- ・市民交流・活動のメインステージとなるラウンジ木の内部空間

- ・内装は仕切りを少なく、積極的に木材を使用、木製家具の活用
- 風と森を利用した環境制御としての覆い、博覧会の成果等の展開としてのシステムを検討

- ・ソーラーチムニーによる重力換気と森の冷気を引き込んだクールチューブ

- ・グロ - バルル - プ状の通路と薄層緑化

- ・壁面緑化、屋上緑化やミストのアプロ - チ

- ・自然光を取り込む天窓

- ・バイオマスの暖炉空間

- ・ソーラー発電

- ・透明太陽電池膜のシェルタ -

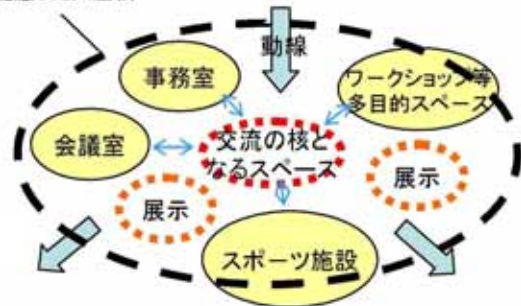
- ・透水型舗装

市民参加によるデザイン

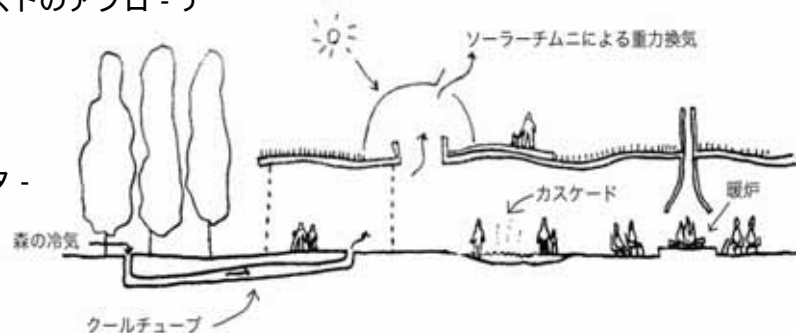
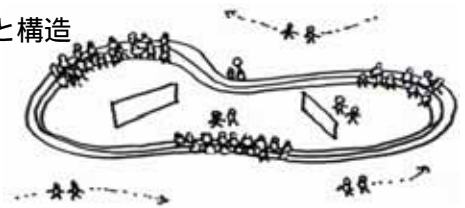
- ・市民のデザイン参加

- ・NPOなどの活動成果を応用した仕上げ材、家具等

環境に配慮した大屋根



- ・交流の核となるスペースを中心に各種機能を配置



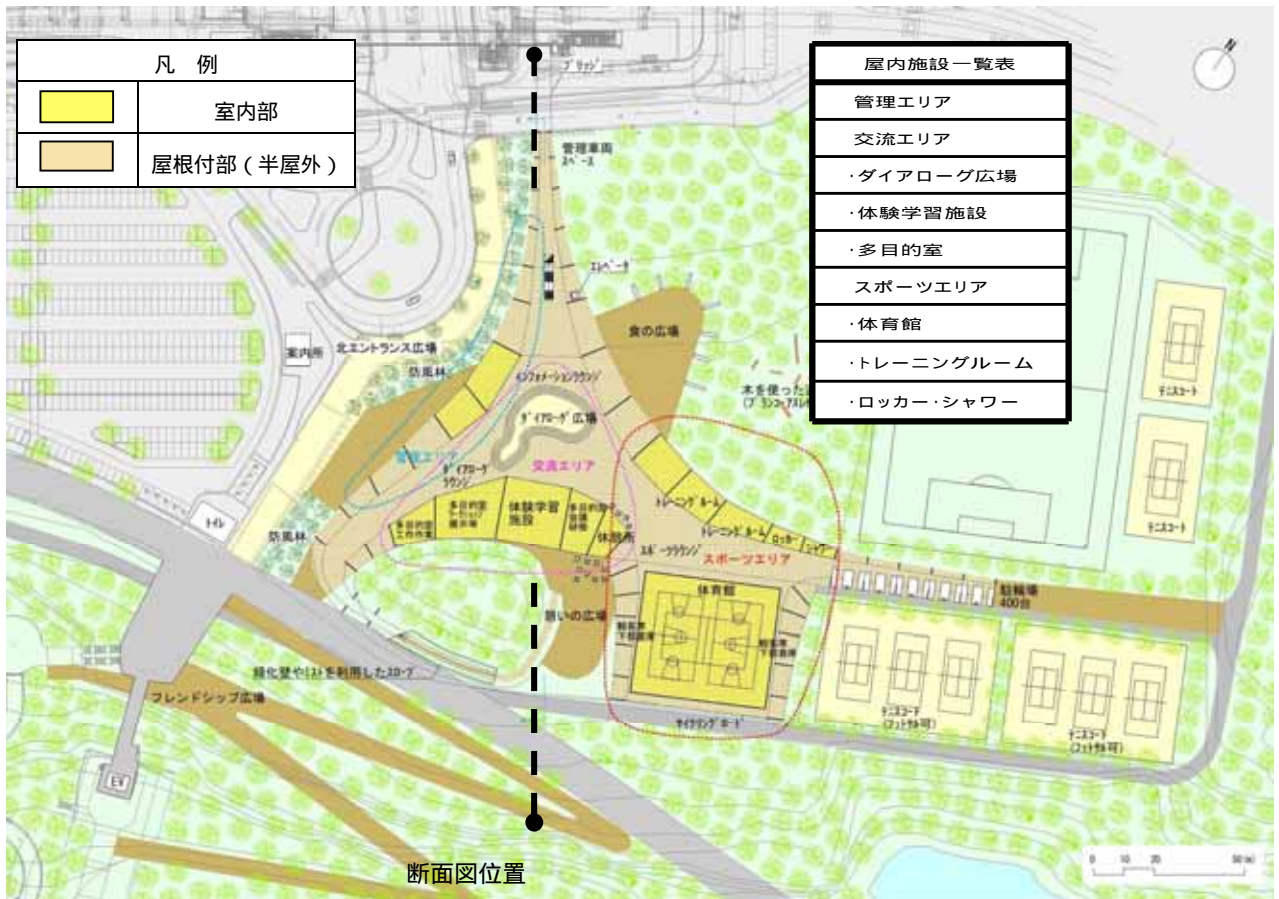
2) 配置計画

- ・グローバルループの外形を持つダイアログ広場を中央に配置し、体育館は南東に配置する。
- ・市民参加・交流活動機能としてダイアログ広場、体験学習施設を導入する。
- ・建物周辺の屋外空間に交流スペースとなる小広場を設ける。建物東側のスペースはバーベキューなどもできる「食の広場」、南側スペースは休憩の場となる「憩いの広場」とする。

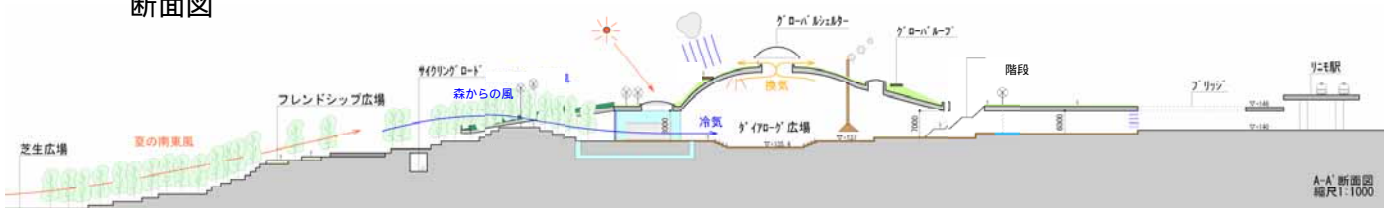
建築面積:概ね 10000m² (室内部は 4000m² 程度)

構造 : R C造または S R C造、平屋建て

全体図

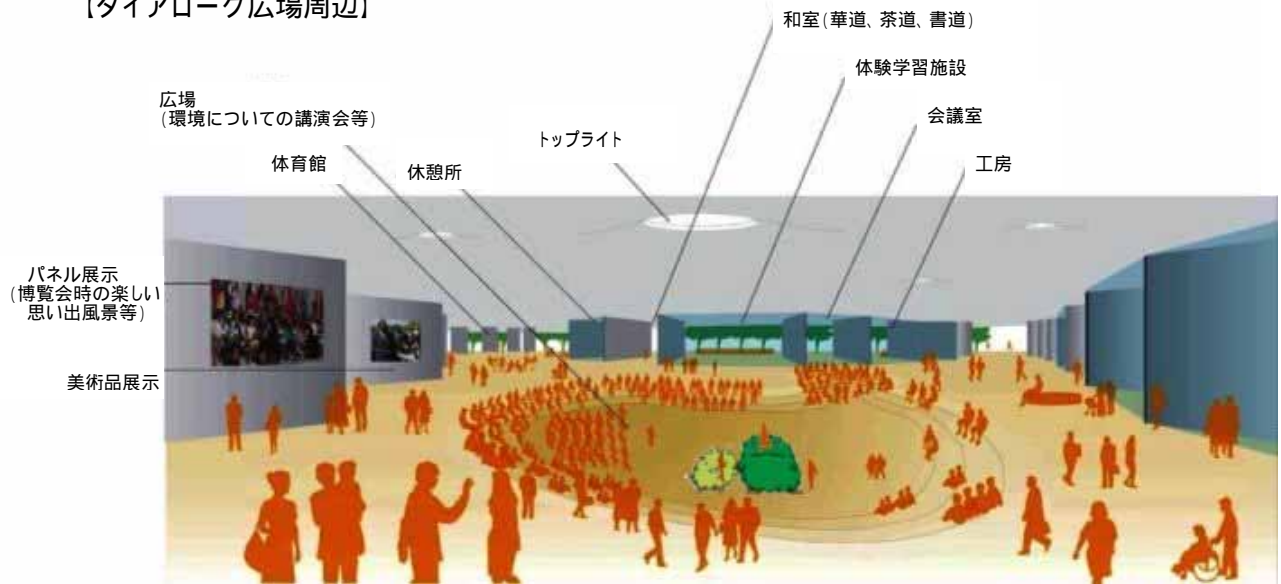


断面図



3) センター内のイメージ

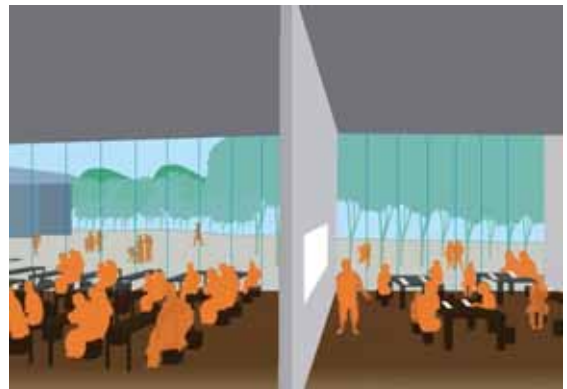
【ダイアログ広場周辺】



【展示空間】



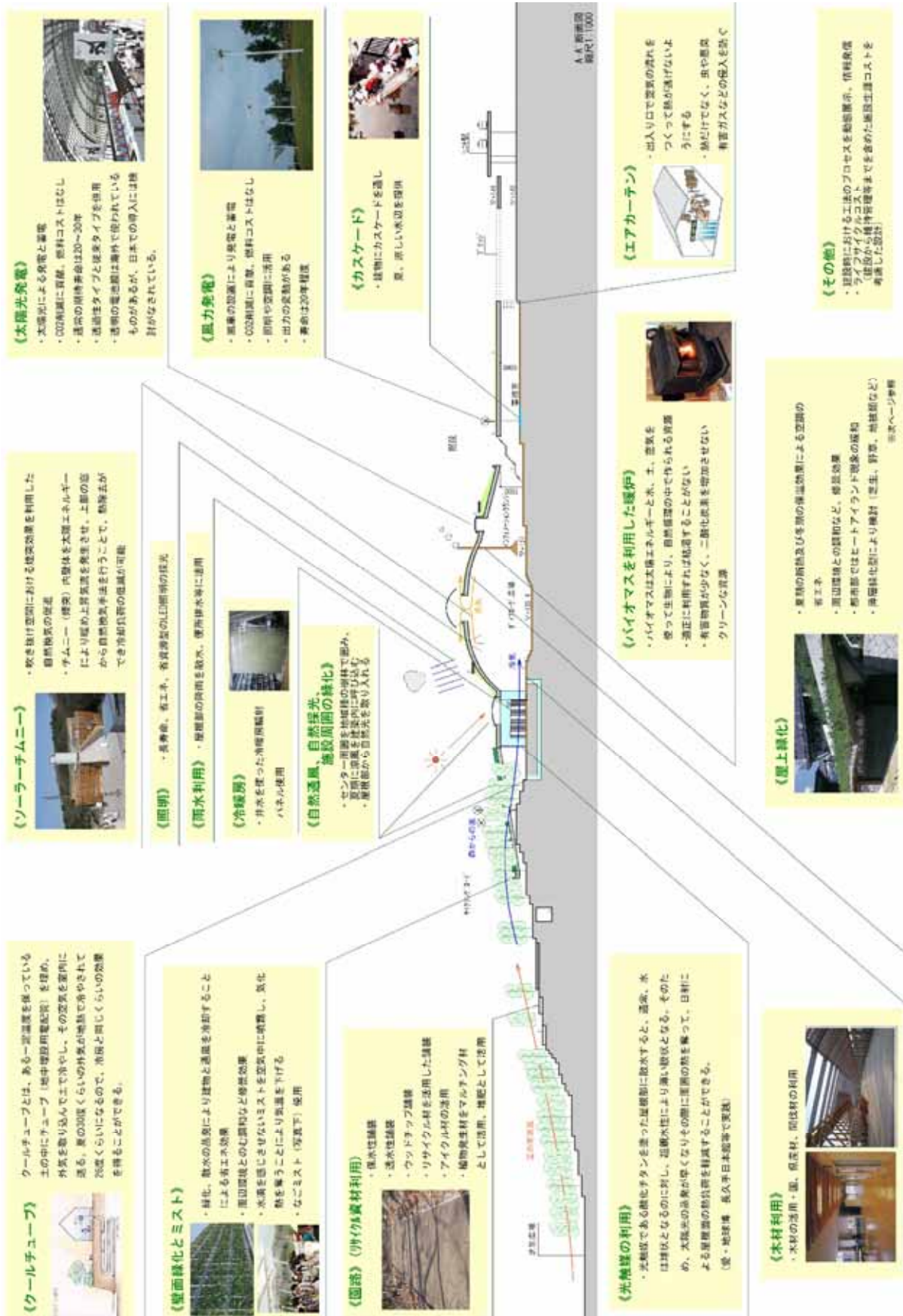
【体験学習施設と工房】



【屋上部】



環境技術のメニュー例



フレンドシップ広場

1) フレンドシップ広場」の位置づけ

- ・市民参加を原動力に世界中の人々との交流が展開された博覧会の象徴的事業であった「一市町村一國フレンドシップ事業」を後世に伝える。
- ・「一市町村一國フレンドシップ事業」が博覧会を盛り上げ、草の根交流を推進した象徴的な事業であることをふまえ、広場のデザインテーマを「一市町村一國フレンドシップ事業」とし、市民参加によりみんなで創り上げる。

2) 機能

- ・記念公園としての象徴機能
- ・市民等、多様な主体の参加の場としての機能

3) 構成

- ・現況の斜面を活用した樹林地と広場・園路で構成
樹林地
- ・記念ゾーンの既存樹林地から東部の既存樹林地へ連続する樹林帯を整備することにより、公園全体の緑のつながりを確保し、大芝生広場を緑で囲む
広場、園路
- ・樹林地内を楽しみながら散策できる園路や、休憩や屋外ワークショップに利用できる小広場を整備
- ・小広場は、一市町村一國フレンドシップ事業を象徴する空間として計画趣旨を踏まえたデザイン、環境に配慮した素材を採用
- ・園路はユニバーサル勾配に配慮し斜面に沿って配置

断面図



4) 整備手法

- ・デザイナー、専門家の参加・指導等による芸術性の高いデザインとする
- ・広場、樹林地とも市民参加で時間をかけて作り上げる
- ・樹林整備は、ボランティアの参加のもと、公園内既存樹林であるモンゴリナラ等を実生からも育成



植樹イベント

5) 利用計画

- ・市民参加型でさまざまなイベント等を、地球市民交流センターや大芝生広場と連携して開催

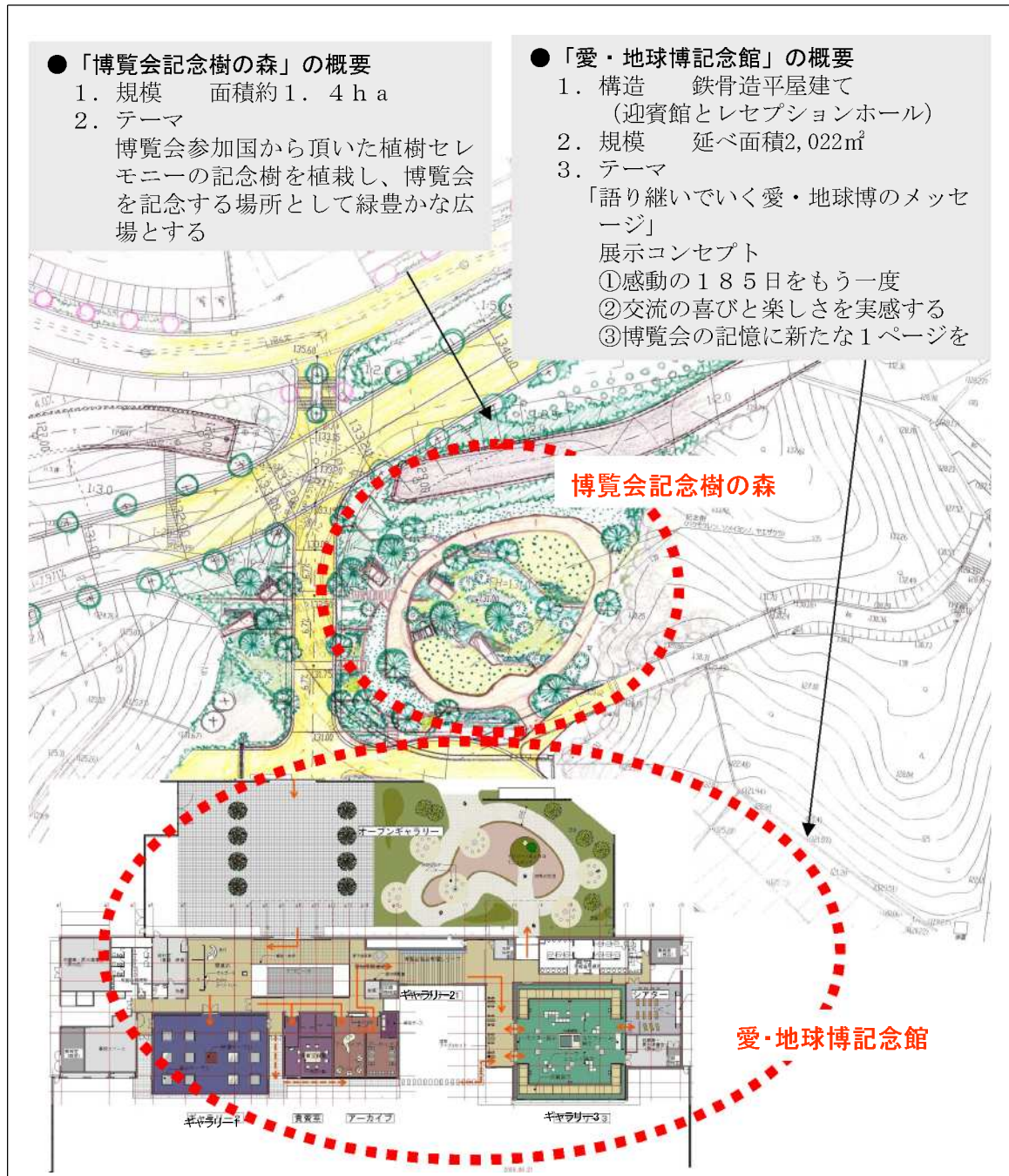


近隣の大学やNPOとの連携による交流・環境関連のプログラム
長久手会場例（当公園のもりのゾーン）

④記念ゾーン

- ・「記念ゾーン」には、人々の記憶に刻まれた博覧会の記憶を呼び起こし、語り伝え、未来につなげていくよう「博覧会記念樹の森」と「愛・地球博記念館」を整備する。
- ・各施設の基本概要等は下図のとおりである。

■記念ゾーン平面図



※「愛・地球博記念館」では、展示品の入れ替えなどの管理が必要となる。

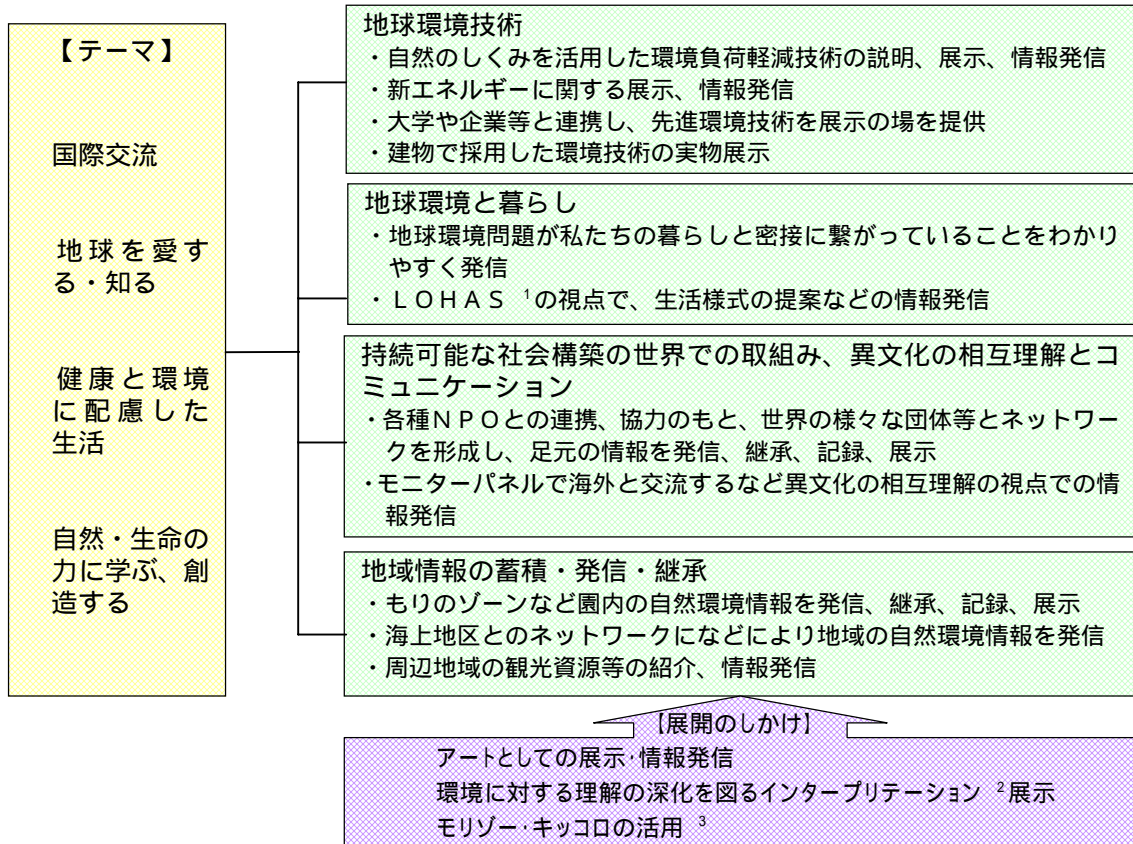
展示・情報発信機能の方向性

テーマゾーン（地球市民交流センター、フレンドシップ広場）での展示・情報発信機能は、NPOなどの活動・交流の場において果たされるものと併せて、公園管理者が果たす常設の骨格的な展示・情報発信機能を配置する必要がある。テーマゾーン全体としての展示・情報発信機能の方向性は以下のとおりである。

見て、参加して、楽しく、遊び、学び、交流する場として整備する

- 市民（市民・NPO・大学・企業・各種研究機関）の交流・情報交換の場
- 持続可能な地球環境に関する市民の意見発表、情報交換の場
- 市民・NPO・大学・企業・各種研究機関の連携による各種交流イベント開催
- 地球環境を楽しく学ぶ場、地球環境のための活動の場
- 来園者がいつ来ても楽しめる常設の骨格的展示
- ワークショップ等、市民活動の場
- 公園情報の記録、発信
- 公園内やその周辺の様々な資源についての情報の記録、発信
- 市民・NPO・企業・各種研究機関による活動の記録、発信
- 博覧会の記録展示や継承事業などについての情報の記録、発信

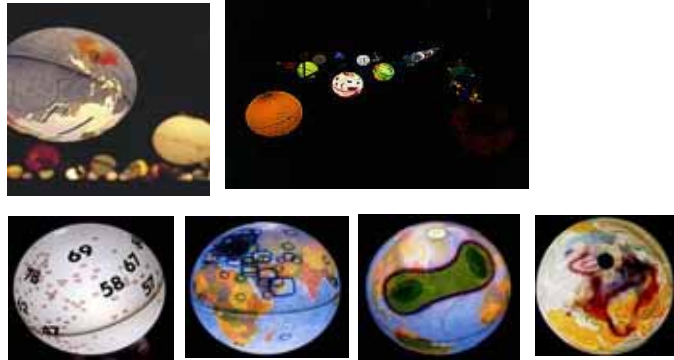
また、公園管理者が展開する常設の骨格的な展示・情報発信の構成としては、テーマから導かれる以下の内容を基本とする。



1 LOHAS: 【Lifestyles of Health and Sustainability】健康で持続可能なライフスタイル
 2 インタープリテーション: 参加者自身の興味を刺激し、関心を引き出し、わかりやすく、楽しく解説するための方法
 3 モリコロの使用は、愛・地球博の理念との整合性や継承・発展に資するとして財団法人2005年日本国際博覧会協会が認めたものに限るとされている。(青少年等への環境学習プログラム、愛・地球博の開催を記念する事業など)

アート展示イメージ

地球規模の情報を身近に伝える
地球儀アート
(作者：インゴ・ギュンダ -
<ドイツ>)



彫刻や壁画などによる常設アート展示
・植物や昆虫などをテーマに展開

平均寿命 テレビ所有 酸性雨 チェルノブイリの雲
人々の交流をテーマとした展示
・フレンドシップ事業の継承
・世界の人々と交流できる映像パネルの活用



エデン・プロジェクト<イギリス>



世界中にカメラとモニタを設置し、カメラを覗いた人々の顔が、モニタやプロジェクションで映し出される (ザン・ガ<中国>)

インタ - プリテ - ション展示イメージ

地球環境を学ぶ展示 (東京ガス：環境エネルギー館)

・葉っぱと光合成工場
～ 私たちの吐いている息は、いったいどうなるの？



・排泄物の循環
～ 動物のうんちの模型の展示



食を通じての楽しい環境学習、展示 (東京ガス：環境エネルギー館)

・食材はどの国から来るかを学ぶ展示



・人の出すゴミの重さを体験



日常生活が環境に与える影響を学ぶ展示（埼玉県環境科学国際センター）

- ・売場型展示で食材について学ぶ
- ・自動車が排出するCO₂体験
- ・レジ型展示で製品リサイクルを学ぶ



自然エネルギーを活用した技術を紹介

(CAT <イギリス>)

The Centre for Alternative Technology

「自然の叡智」を楽しく伝えていくインタプリタ - の配置



風力エネルギーの活用
: CAT

地域情報の展示イメージ

グリーンマップ作成

- ・グリーンマップとは、それぞれの都市の自然や環境関連のポイントを、地域の人たちが自らの足で歩いて探し、世界共通のアイコン（絵文字）を使って作成する環境マップのこと。
- ・愛・地球博の瀬戸愛知県館で全県版のグリーンマップを展示するプロジェクトを展開。
- ・県民参加、まちづくりや環境教育のツールとして最適。



瀬戸愛知県館のグリーンマップ

モリゾー・キッコロの活用展開イメージ

展示内容や関連イベント・WSへの活用、展示ナビゲーター

例) モリコロの森体験展示、モリコロに変身WS 等



モリゾー・キッコロの紹介コーナー

例) モリコロコーナー、モリコロの世界 等



みんなで地球環境について考えよう!

商品、グッズ販売



アイデアのひろば周辺基本計画図

基本計画図

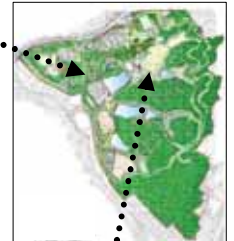


凡例		施設名称
	137	計画高

アイデアのひろば		アイデアのひろば周辺施設	
	地球市民交流センター		テニスコート
	フレンドシップ広場		多目的球技場
	愛・地球博記念館		北駐車場
	博覧会記念樹の森		北エントランス広場
	食の広場		温水プール・アイススケート場
	憩いの広場		大芝生広場・お花畑

4.4 主なひろばの整備イメージ

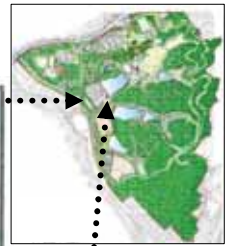
花の広場 花や緑のまちづくり推進に役立つ緑化技術や、花を生活に取り入れるライフスタイル提案の場。県民花づくり花壇や、バイオラング技術を活用した垂直花壇、壁面緑化した休憩所を配置。



大芝生広場・お花畑 大勢の人が参加・交流できる多様なイベントに対応する広く開放的な空間。県民参加イベント・プログラムの主会場として多目的に活用。



西エントランス広場 こいの池や周辺の樹林からなる地形と温水プール・アイススケート場などで構成される背景に、水や風の流れをイメージし修景する空間。様々な交流スペースにも利用できる公園西口のエントランス空間。

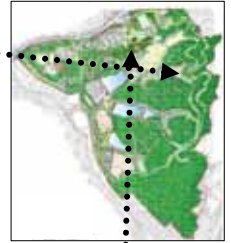


あいちアーツクエア 公園の歴史を活かした彫刻やアート作品を配し、瓦などの県産材を活用し修景する広場。



キャンプ場

学校教育等の団体向け施設。
ディキャンプ等のアウトドアレクリエーション空間。



アイデアのひろば 博覧会の理念と成果を引き継いだテーマ(環境、交流)を展開するゾーン。市民参加・交流活動拠点となる地球市民交流センターやフレンドシップ広場、愛・地球博記念館を配置。



4.5 県民と行政とのパートナーシップによる公園整備と管理運営

県民と行政とのパートナーシップによる公園整備と管理運営についての具体的な展開内容は下記のとおりとする。

公園マネジメント会議

本公園に地域の人々や企業、NPO、大学等が効果的に関われるよう各々の役割を考慮し、県民が互いに関係しながらみんなで公園を育てていく管理運営を進めていくため、県民と行政とのパートナーシップにより構成した「公園マネジメント会議」を設置する。マネジメント会議の詳細については、今後、公園の段階的な供用とあわせて具体化するものであるが、ここでは、その基本構成イメージについて整理する。

1) 設置目的

- ・愛・地球博記念公園の公園管理運営に関わる関係者が、県民参加型の公園管理運営について協議、実践していく会議。

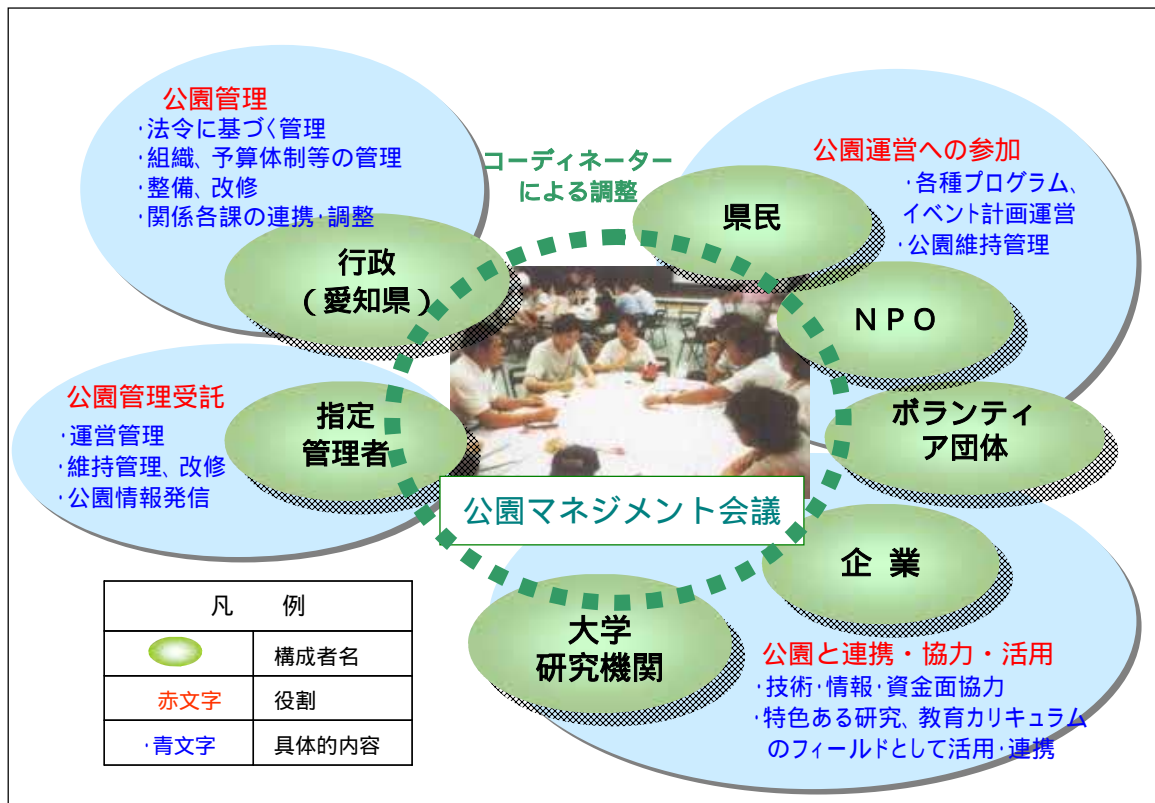
2) 会議の所掌事務

- ・県民参加の具体的内容の検討と実践
(施設づくり、ソフト企画、ソフト運営管理、維持管理)
- ・公園管理運営

3) 構成者とその役割

- ・構成者とその役割について下図に整理した。

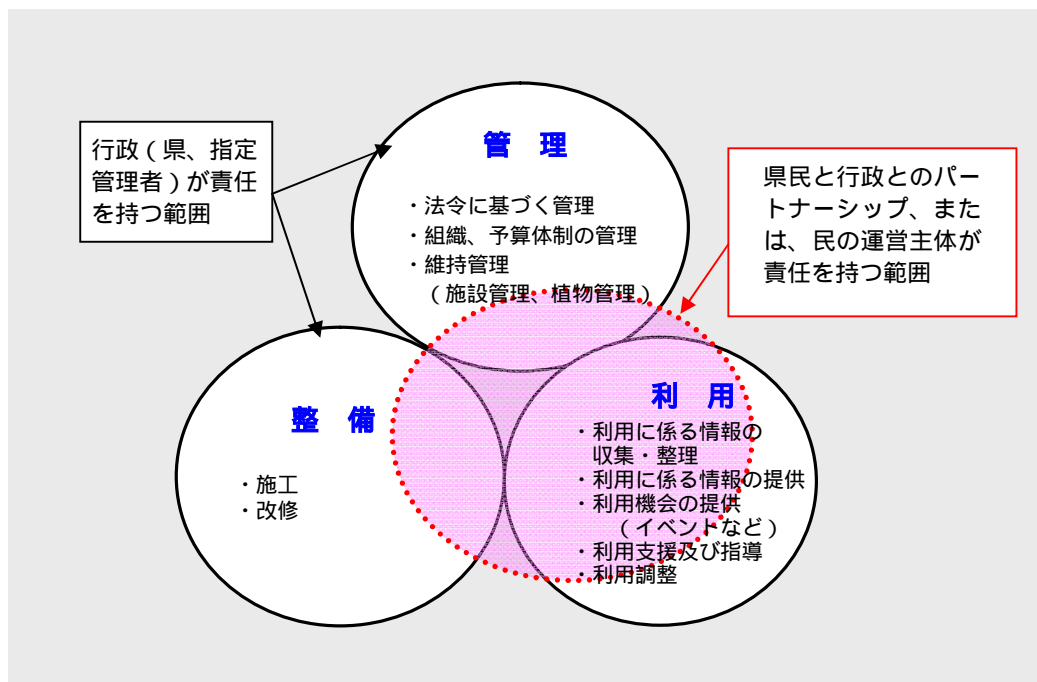
公園マネジメント会議の構成者とその役割



4) 公園管理運営上における官民の役割分担イメージ

- ・公園管理運営は、大きく「管理」「利用」「整備」の3つに分類（公園管理ガイドブック）される。マネジメント会議推進にあたっては、県民と行政とのパートナーシップによる管理運営の有効性と限界性を考慮した上での構成者の役割と行政の責任範囲の明確化が重要となる。
- ・本公園での役割分担イメージとしては、「管理」「整備」にかかわる範囲では行政を軸とし、「利用」に関わる範囲においては、県民と行政とのパートナーシップによる展開を軸として設定する。

官民の役割分担イメージ

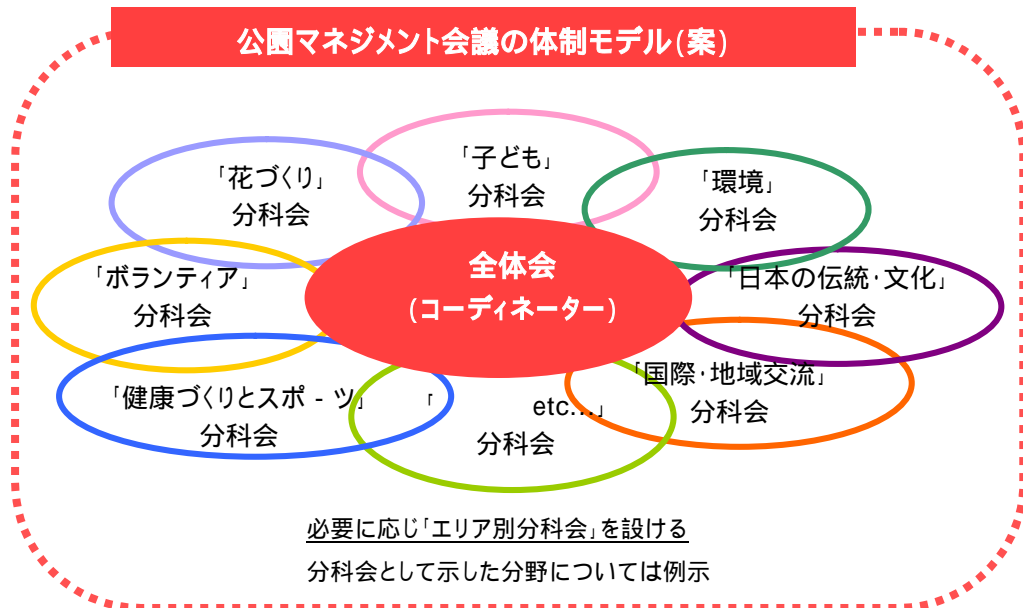


5) 体制モデル

全体会と分科会による運営

- ・公園マネジメント会議は、行政、県民、企業、大学等、多種多様な人々により構成される上、公園のマネジメントの要素は多分野に渡る。従って、県民主体の管理運営を実現させる公園マネジメントの展開のためには、様々な立場や役割の人々から得られるたくさんの有効な意見や情報をスムーズに反映できる体制づくりが求められる。
- ・よって、公園マネジメント会議に、公園で展開される活動の分野別分科会を設け、分野別の取り組みを行う。各分科会のメンバーは、公園マネジメント会議の構成者（行政、指定管理者、県民、NPO、ボランティア団体、企業、大学・研究及び関係機関等）と各分野の専門家などのアドバイザーにより構成する。

- ・各分科会での検討や管理運営上の提案は、組織の中核となる「全体会」で話し合い、公園マネジメント会議の体制づくりを進めていく。全体会には、各チームや関係者を総合的にまとめる統括力を有したコーディネーターを配置し、県民と行政の中間的な立場で全体会をコ-ディネ-トしていく。また、必要に応じ、エリア別の分科会を組織し、分野別分科会や全体会との調整を図りながら、公園の開園エリア拡大に合わせたエリア毎のマネジメントを行う。



ボランティア活動の推進

公園管理運営について、県民がボランティアとして参加できるシステムを構築する。ボランティアを、公募・養成し、ボランティア活動が実践されていく中で、活動者自身の発案によるイベントやプログラムの企画運営など、公園管理に自主的に関わっていくことができるようにする。

ボランティアの養成については、特に、地域活動への関心が高く、豊かな社会経験を持つシルバー世代や団塊世代などを対象としたボランティア養成を実施し、園内フィールドを、世代間交流の場、自分の特技を生かす活動の場、生きがいづくりの場として提供する。

県民が主体的となる管理運営への段階的な発展

管理運営に関する県民と行政とのパートナーシップは、短期間で構築できるものではなく、継続的な活動実践のもとに徐々に進めていく。そして将来的には、行政主体による管理運営から、県民と行政とのパートナーシップによる管理運営へ発展させる。

段階ごとの取り組み内容は以下のとおりである。

公園への県民参加のステップ



公園マネジメント計画の策定

公園マネジメント会議の組織体制を確立させるためには、組織のルールとなり、公園および公園管理運営に関わる各要素(人、物、機能、活動、手続き等)を効果的に結合した「公園マネジメント計画」の策定が必要である。

基盤づくり期には、開園エリアのスケジュールと整合を図りつつ、各分科会が試行錯誤を繰り返しながら、全体会の場でマネジメント計画を徐々に組み立てていく。

公園マネジメント計画の主な内容

主な内容
<ul style="list-style-type: none"> ・県民協働のためのしくみやルール ・多面的な公園利活用 ・プログラム運営人材育成 ・公園マネジメント会議運営

この時期における検討により策定された計画を第1期公園マネジメント計画とし、将来期においてもこのしくみを継続し、5年後毎を目標として、PDCAサイクル(1)による次期マネジメント計画策定を推進していく。この計画の成熟度に応じて、公園マネジメント会議自体が、初期の組織形態から将来期の組織形態へと成長していく。

1 PDCAサイクル

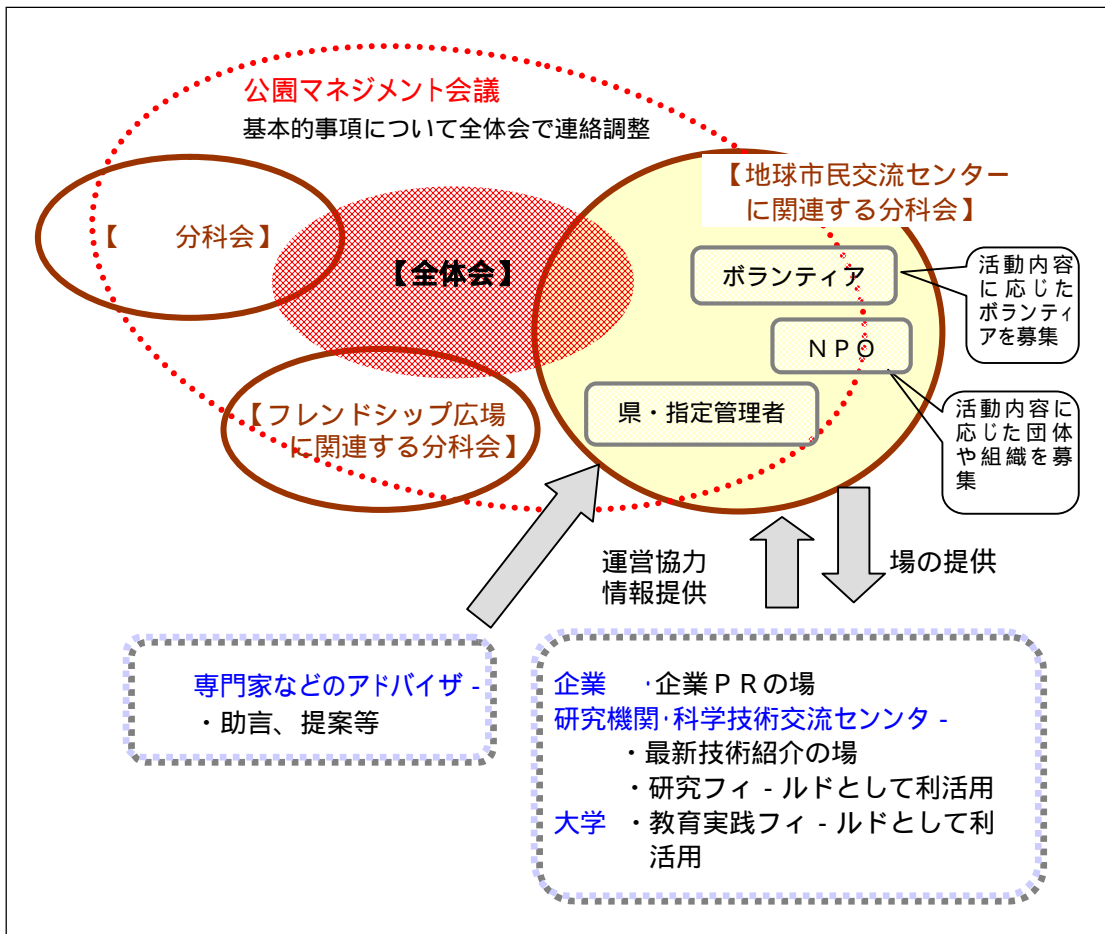
・「Plan(計画)」「Do(実施)」「Check(点検)」「Act(是正処置)」のイニシャルをとったマネジメント手法

地球市民交流センターの運営・管理体制

本公園の管理運営の中心となるのは、公園管理運営拠点である地球市民交流センターである。また、地球市民交流センターは公園内における市民活動の拠点でもあり、愛・地球博で培われた「地球市民」を継承発展させるために情報発信・体験交流する空間である。これらの機能が最大限に発揮されるよう、運営・管理を先駆的に取り組んでいく。その運営・管理体制の基本的な考え方は下記の通りとする。

- ・地球市民交流センターの施設管理は県と指定管理者で行う。
- ・運営については、県と指定管理者を中心に、ボランティア・NPOなどと協力しながら行う。
- ・企業や研究機関、大学との連携や、専門家からの助言を受けながら、円滑な運営を図る。
- ・博覧会の理念を継承する市民活動を受け入れていく場として、博覧会の理念を基盤に活動を発展させている団体や機関（博覧会協会継承団体、ボランティアセンター）等との連携を図りながら、利用形態に適合したソフト・ハードの整備を進めていく。
- ・地球市民交流センターは、公園マネジメント会議において関連する分科会と連携させ、公園全体の運営を通じて、具体的な運営を実施していく。

地球市民交流センターの運営のイメージ



4.6 「サステイナブル・パーク」の実現に向けて

これまでにまとめてきた本公園の整備内容は、「健康で精神的な豊かと楽しさに満ち、県民と共に成長し続ける21世紀型の公園『サステイナブル・パーク』を目指す」という整備・活用の目標に基づいたものである。本計画における『サステイナブル・パーク』への取り組みとなる整備内容を以下に整理する。

県民参加を組み込み、県民とともに成長する管理運営

県民(県民・企業・大学など)と行政とのパートナーシップを推進するための公園マネジメント会議の設置。

施設づくりから、ソフト企画、ソフト運営管理、維持管理等、様々な面で県民参加による展開に取り組む。

- ・公園全体で一貫性のあるソフトプログラムテーマとして「環境と健康」と「参加と交流」を掲げ、公園全体で、県民参加のもと、持続的な環境づくり、健康づくりにつながるソフト展開を進める。
- ・県民が計画作りから参加する公園づくり空間を設定し、県民の意見・アイデアで空間整備を行っていく。

国内外の市民ボランティア、NPO等の国際的な連携の場となるよう整備・運営を行う。

豊富な知識と社会経験を持つ団塊世代が、公園での活動をきっかけに地域づくりに参加していくことを促進する。ここでの活動を通して地域に溶け込み、地域全体へフィールドを広げ、参加者自身の生きがいづくりや魅力ある地域づくりにつなげていくようにする。

環境万博であった愛・地球博の継承

博覧会のテーマである環境と大交流を引き継ぐ展開整備を実現。その核となる「アイデアのひろば」を整備し、市民参加・活動交流拠点として活用する。

博覧会で展開された自然体感プログラムなど、地球環境を意識した日常生活につながるソフトプログラムを展開する。

愛知万博のマスコットキャラクターであり、本公園の愛称(モリコロパーク)ともなっているモリゾー・キッコロを公園キャラクターとして育て活かしていくために、公園運営の基本戦略において、モリゾー・キッコロのキャラクターを取り込んだ仕掛けを行う。

空間構成・施設計画・管理運営

公園の持つ存在効用(自然環境・地域特性)を考慮した施設計画を行う。

利用者が継続的に公園に関われるよう幅広い世代の人々が利用できる形態を目指し、広場などは多目的な二・ズに対応できるものとする。

利活用イメージの明確化など、常に利用者からの視点を持ちながら設計、運営を行う。
環境に特化せず、教育と娯楽を融合させた、楽しみながら学ぶことのできる施設展開を行う。また、環境技術は進化するため、あきさせない展示の工夫を行う。
参加意識を高めるため、建設プロセスを見学できる仕組みを検討する。
間伐材やリサイクル材の利用を推進。
刈り草・剪定材の園内循環の実践施設としてリサイクルセンターの設置。
廃棄物の分別収集や持ち帰りの推進。
自然エネルギーを活用した施設計画の推進。